

日本建設

人々往来増加予想 監視の目光らせる

ススキノ繁華街 対策徹底

札幌市心部の至る所でホテルの新築工事が進んでいる。新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中、作業員の安全対策だけでなく感染予防にも目を配らざる必要がある。新ホテルが竣工するまで無事故無災害をどのように達成するのか。大通、薄野地区で工事を進める清水建設と日本建設の各現場所長に安全対策を聞いた。

西健児 作業所長



ススキノ繁華街に位置する中央通り5条交差点の1で工事が進むのはアルファコート(本社)は、木場のホテル新築、施工を担当する日本建設札幌支店の西原作業所所長は、新型コロナウイルスの感染の広がり、今後の人の往来がさらに増えることを予測する。グリーンなとによる材料搬入や荷揚げでの災害防止に対し、監理人や交通誘導員を計画的に配備する。安全対策の徹底を図る。規模はR12、地階1地上3階、延べ5177平方メートル、大正鉄道沿いの相鉄ホテルディングス(本社・構ひ)のグループ会社である相鉄ホテルマネジメントがホテル運用に活用して稼働させる。社内外の打ち合わせも、電子メールによる資料送信やウェブ会議の活用などで稼働させる。営業予定している。5月末の進捗率は7.4%、6月は、3階の鉄骨や型枠を組み立て、コンクリート打設を進めている。1日3回りの作業員数は約30人が、内職員事には取り掛かる。現場にはコロナ感染予防の換気扇を設置して、換気を行う。全員の換気実施し、37.5度以上だと帰宅してもらい、マスクはめにストックし、いつでも配れる。体制を取っている。社内外の打ち合わせも、電子メールによる資料送信やウェブ会議の活用などで稼働させる。

「6S+S運動」を推進

社内外打ち合わせは メールやウェブ会議



日本建設が進めるススキノのホテル現場内。繁華街で安全に配慮しながらホテル建設が進む

低減する。西作業所所長は、「コロナ禍以前より、3DモデリングやBIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)の活用が広がっており、作業効率も向上している」と述べ、感染対策として、メールやウェブ会議の活用を推進している。現場に一人ひとりが安全意識を持って取り組む必要を説く。

アップに役立っている。

西作業所所長は、ゼロ災害を達成するために必要としている。毎日の無事故の積み重ねが無事故での完成につながることを強調。過去の事故事例などを交えながら安全作業のポイントを現場で周知している。

「6S+S運動」は、整理、清掃、清潔、しつけ、作法(ナリ)の5Sに加え、安全意識を高める「+S」を推進している。現場に一人ひとりが安全意識を持って取り組む必要を説く。